

臺灣總督府陸軍幕僚條例

(明治三十年十月勅令第三百六十三號)

朕臺灣總督府陸軍幕僚條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣總督府陸軍幕僚條例

- 第一條 臺灣總督府陸軍幕僚ハ臺灣總督ノ所轄内ニ於ケル陸軍ニ關スル事ヲ掌ル處トス
- 第二條 幕僚ヲ分テ參謀部副官部トス
- 第三條 參謀長ハ總督ヲ補佐シ幕僚ヲ統ヘ事務整理ノ責ニ任ス
- 第四條 幕僚ノ各將校及同相當官ハ參謀長ノ區處ヲ受ケ部務ヲ擔任ス
- 第五條 陸軍幕僚ノ編制ハ別ニ之ヲ定ム

附則

第六條 本條例ハ明治三十年十一月一日ヨリ施行ス

臺灣陸軍監督部條例

(明治三十年九月勅令第三百三十六號)

朕臺灣陸軍監督部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣陸軍監督部條例

- 第一條 臺灣陸軍監督部ハ臺灣守備混成旅團司令部所在地ニ之ヲ置ク
- 第二條 監督部ハ陸軍經營部ヲ管理シ臺灣ニ於ケル軍隊ノ會計事務ヲ監督シ及陸軍官衙ノ會計事務ヲ監視シ總テ官金ノ收支官有物ノ出納ニ關スル計算及物件(出師準備品ハ除ク)ヲ検査シ且專

務管轄區域内ノ軍吏部士官下士ノ人事ヲ掌ル

- 第三條 監督部ハ當該旅團ノ名稱ヲ冠シ某旅團監督部ト稱ス
- 第四條 監督部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長 一、二等監督

部員 監督補

副部員 一、二、三等軍吏

第五條 監督部ハ當該旅團ノ管區ヲ以テ事務ノ管轄區域トス

第六條 監督部長ハ陸軍大臣ニ隸シ部務ヲ總理シ管掌ノ事務ニ就テハ其責ニ任ス

第七條 監督部長ハ匪徒鎮壓及出戰準備ニ關スル軍隊ノ給養上ニ付テハ旅團長ノ命令ヲ受クヘシ又匪徒鎮壓ノ爲必安アルトキハ監督部ノ本務ニ妨ケナキ限リテ程度トシ其職員ノ若干ヲ旅團長ニ隸屬セシムルコトヲ得

第八條 監督部長ハ事務管轄區域内ニ係ル會計上ニ就テ必要アルトキハ當該長官又ハ主任官吏ニ諮問シ其辨明ヲ求ムルコトヲ得

第九條 監督部長ハ事務管轄區域内ノ官衙及軍隊ニ係ル會計上ノ檢閲ヲ行ヒ廢品(出師準備品ハ除ク)ノ検査又其實効ヲ許可シ又必要ニ際シ官衙軍隊ノ金櫃物件及帳簿ヲ検査ス但軍隊ニアリテハ檢閲前旅團長ノ承認ヲ經ルモノトス

第十條 部員ハ部長ノ命ヲ受ケ部務ヲ分掌シ其責ニ任ス

第十一條 第四條職員ノ外軍吏部下士若クハ判任文官若干ヲ置ク

附則

第十二條 本條例ハ明治三十年十一月一日ヨリ施行ス

臺灣總督府海軍幕僚條例

(明治三十年十月勅令第三百六十四號)

朕臺灣總督府海軍幕僚條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣總督府海軍幕僚條例

第一條 臺灣總督府海軍幕僚ハ臺灣總督ノ所轄内ニ於ケル海軍ニ關スルコトヲ掌ル

第二條 臺灣總督府海軍幕僚トシテ左ノ職員ヲ置ク

參謀長

參謀

副官

機關長

軍醫長

主計長

前項ノ外海軍造船技士主理及通譯官ヲ置ク

幕僚ノ定員ハ別表定ムル所ニ依ル

第三條 參謀長ハ臺灣總督ノ統轄ニ屬スル海軍軍政及軍令ニ關シ總督ヲ補佐シ又幕僚ノ事務ヲ監

理ス

第四條 參謀ハ參謀長ノ命ヲ承ケ出師ノ準備作戰ノ計畫沿岸ノ防禦警備演習檢閲及牒報等ニ關ス

ルコトヲ掌理ス

第五條 副官ハ參謀長ノ命ヲ承ケ人事及庶務ヲ掌理ス

第六條 機關長ハ參謀長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ニ關スルコトヲ掌理ス

第七條 軍醫長ハ參謀長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ニ關スルコトヲ掌理ス

第八條 主計長ハ參謀長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關スルコトヲ掌理シ又副官ノ事務ヲ助ク

第九條 造船技士主理及通譯官ハ參謀長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十條 臺灣總督府海軍幕僚附トシテ海軍下士並判任文官ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

附則

第十一條 本令ハ明治三十年十一月一日ヨリ施行ス

(別表ハ之ヲ略ス)

臺灣總督府稅關官制

(明治二十九年三月勅令第九十二號)

朕臺灣總督府稅關官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣總督府稅關官制

第一條 臺灣總督府稅關ヲ左ノ五箇所ニ置ク

淡水

基隆

安平

臺南

打狗

第二條 稅關ノ外稅關ノ事務ヲ行フヘキ場所ニ稅關出張所ヲ配置ス其ノ配置ハ臺灣總督之ヲ定ム

第三條 稅關ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 各開港ニ於ケル船舶ノ出入ニ關スル事項
- 二 貨物ノ輸出入ニ關スル事項
- 三 各開港外ニ於ケル外國貿易ノ取締ニ關スル事項
- 四 各開港外ニ於ケル輸出入貨物搭載ノ船舶出入ニ關スル事項
- 五 輸出入稅及稅外諸收入ノ徵收ニ關スル事項
- 六 稅關管理ノ倉庫ニ關スル事項

第四條 各稅關ニ稅關長一人ヲ置ク奏任トス

淡水稅關長ハ基隆稅關長、安平稅關長ハ臺南及打狗稅關長ヲ兼ム

第五條 各稅關ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

鑑定官 二人 奏任

鑑定吏 六人 判任

屬 四十八人 判任

鑑定吏 十五人 判任

監吏補 九十八人 判任

第六條 稅關長ハ臺灣總督府府民政局長ノ命ヲ承ケ稅關ニ關スル諸般ノ事務ヲ掌理ス

第七條 鑑定官ハ稅關長ノ命ヲ承ケ貨物ノ検査鑑定ノ事ヲ掌ル

- 第八條 鑑定吏ハ上官ノ指揮ヲ承ケ貨物ノ検査鑑定ニ從事ス
- 第九條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
- 第十條 監吏ハ上官ノ指揮ヲ承ケ監吏補ヲ監督シテ密商稅ノ監視ニ從事ス
- 第十一條 監吏補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ監吏ノ事務ヲ助ク

附則

第十二條 本令ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

臺灣總督府地方官制 (明治三十年十月勅令第百五十二號)

朕臺灣總督府地方官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣總督府地方官制

第一條 臺灣ニ臺北縣、新竹縣、臺中縣、嘉義縣、臺南縣、鳳山縣、宜蘭廳、臺東廳及澎湖廳ヲ置ク其ノ位置及管轄區域ハ臺灣總督之ヲ定ム

第二條 各縣ニ左ノ職員ヲ置ク

知事

書記官

警部長

稅務官

技師

典獄

警視
屬
警部
看守長
監獄書記
通譯

第三條 各廳ニ左ノ職員ヲ置ク但臺灣澎湖廳ニハ當分ノ内財務長ヲ置カス

廳長

書記官

財務長

警視

屬

警部

看守長

監獄書記

通譯

第四條 知事ハ一人勅任トス

第五條 廳長ハ一人奏任トス

第六條 書記官ハ各縣二人各廳一人奏任トス

第七條 警部長、財務長、稅務官及典獄ハ各一人奏任トス

警視ハ奏任トシ各縣各廳ヲ通シテ二十人ヲ以テ定員トス

第八條 屬、警部、看守長、監獄書記及通譯ハ判任トシ各縣各廳ヲ通シテ千二百人ヲ以テ定員トス其ノ各縣各廳ノ定員ハ臺灣總督之ヲ定メ其ノ各官ノ定員ハ臺灣總督ノ認可ヲ經テ知事、廳長之ヲ定ム

第九條 技師ハ縣、技手ハ縣又ハ廳ノ須要ニ依リ俸給豫算定額内ニ於テ適宜之ヲ置クコトヲ得

第十條 知事、廳長ハ臺灣總督ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部内ノ行政事務ヲ管理ス

第十一條 知事、廳長ハ部内ノ行政事務ニ付其ノ職權若ハ特別ノ委任ニ依リ管内一般又ハ其ノ一部ニ縣令廳令ヲ發スルコトヲ得

第十二條 知事、廳長ハ辨務署長ノ處分若ハ命令ノ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ處分若ハ命令ヲ取消又ハ停止スルコトヲ得

第十三條 知事、廳長ハ非常急變ニ際シ兵力ヲ要スルトキハ其ノ附近地ノ旅團長若ハ守備隊長ニ出兵ヲ要求スルコトヲ得

第十四條 知事、廳長ハ所部ノ官吏ヲ監督シ奏任官ノ功過ハ臺灣總督ニ具狀シ判任官以下ノ進退一ハ之ヲ專行ス

第十五條 知事、廳長ハ所部ノ奏任官ノ懲戒ハ臺灣總督ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十六條 知事、廳長ハ廳中職務ノ細則ヲ設クルコトヲ得

第十七條 知事、廳長事故アルトキハ上席高等官其ノ職務ヲ代理ス

知事、廳長ハ縣、廳ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第十八條 知事、廳長ハ臺灣總督ノ認可ヲ經テ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ辨務署長ニ委任スルコトヲ得

第十九條 各縣ニ知事官房、內務部、財務部、警察部及監獄署各廳ニ庶務課、財務課、警察課及

監獄署ヲ置ク其ノ事務ノ分掌ハ知事、廳長臺灣總督ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム但臺東廳、澎湖廳ニ

ハ當分ノ內財務課ヲ置カス庶務課ニ於テ其ノ事務ヲ掌理ス

第二十條 縣ニ在テハ書記官ノ一人ハ內務部長、一人ハ財務部長、警部長ハ警察部長、典獄ハ監

獄署長トナリ知事ノ命ヲ承ケ所部ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス稅務官ハ財務部ニ屬シ租

稅ニ關スル事務ヲ掌理ス

廳ニ在テハ書記官ハ庶務課長警視ノ内一人ハ警察課長、財務長ハ財務課長トナリ廳長ノ命ヲ承

ケ所部ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第二十一條 縣ニ在テハ各部長又ハ監獄署長事故アルトキハ知事ニ於テ縣官吏ノ一人ヲシテ其ノ

事務ヲ代理セシメ廳ニ在テハ各課長又ハ監獄署長事故アルトキハ廳長ニ於テ廳官吏ノ一人ヲシ

テ其ノ事監ヲ代理セシム

第二十二條 廳ハ縣ニ在テハ知事官房、內務部又ハ財務部ニ屬シ廳ニ在テハ庶務課又ハ財務課ニ

屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十三條 警部ハ警察部、警察課又ハ警察署若ハ警察分署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ヲ分掌

シ部下ノ巡查ヲ指揮監督ス

第二十四條 看守長ハ監獄署又ハ監獄支署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ監獄ノ戒護ヲ掌リ看守ヲ指揮

監督ス

廳ニ在テハ看守長ヲ以テ監獄署長ニ充ツ

第二十五條 監獄書記ハ監獄署又ハ監獄支署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十六條 通譯ハ縣、廳ノ各部、課及其ノ他ノ官署ニ分屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第二十七條 縣、廳內須要ノ地ニ警察署ヲ置ク其ノ位置、名稱及管轄區域ハ臺灣總督之ヲ定ム

知事、廳長ハ必要ト認ムルトキハ臺灣總督ノ認可ヲ經テ警察署ノ下ニ警察分署ヲ置クコトヲ得

第二十八條 警察署長ハ警視又ハ警部、警察分署長ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ

警察署長、警察分署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ署主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第二十九條 巡查及看守ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第三十條 知事、廳長ハ必要ト認ムルトキハ臺灣總督ノ認可ヲ經テ監獄署ノ下ニ監獄支署ヲ置

クコトヲ得

監獄支署長ハ看守長ヲ以テ之ニ充ツ

監獄支署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ署主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第三十一條 縣、廳職員ノ外警察署及監獄署ヲ置キ列任官ノ待遇トス

第三十二條 縣、廳ニ參事ヲ置クコトヲ得

參事ハ各縣各廳五人以内トシ奏任官ノ待遇トス

參事ハ縣、廳管轄内ニ居住シ學識、名望アル者ニ就キ拓殖務大臣ヲ經テ臺灣總督之ヲ奏薦宣行ス

第三十三條 參事ハ地方ノ行政事務ニ關シ知事、廳長ノ諮詢ニ對シ意見ヲ述フルモノトス

參事ハ知事、廳長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事スルコトアルヘシ
第三十四條 縣、廳内須要ノ地ニ辨務署ヲ置ク其ノ位置、名稱及管轄區域ハ臺灣總督之ヲ定ム
第三十五條 各辨務署ニ左ノ職員ヲ置ク

署長

主記

第三十六條 署長ハ一人奏任又ハ判任トス

第三十七條 主記ハ判任トシ各辨務署ヲ通シテ八百人ヲ以テ定員トス其ノ各縣各廳下ノ定員ハ臺灣總督之ヲ定メ其ノ各辨務署ノ定員ハ知事、廳長之ヲ定ム

第三十八條 署長ハ知事、廳長ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理ス

第三十九條 署長ハ必要アルトキハ憲兵又ハ警察官吏ノ出張ヲ要求スルコトヲ得

第四十條 署長ハ部下ノ官吏ヲ監督シ其ノ進退、功過ヲ知事、廳長ニ具狀ス

第四十一條 署長ハ部内ノ街、庄、社、長ヲ監督シ其ノ進退及成蹟ヲ知事、廳長ニ具狀ス

第四十二條 署長事故アルトキハ上席主記ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

署長ハ部下ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第四十三條 主記ハ署長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第四十四條 辨務署ニ參事ヲ置クコトヲ得

參事ハ各署五人以内トシ判任官ノ待遇トス

參事ハ辨務署管轄内ニ住居シ學識、名望アル者ニ就キ知事、廳長之ヲ命ス

第四十五條 參事ハ部内ノ行政事務ニ關シ署長ノ諮詢ニ對シ意見ヲ述フルモノトス

參事ハ署長ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事スルコトアルヘシ

臺灣總督府撫墾署官制 (明治三十年五月勅令第百六十三號)

朕臺灣總督府撫墾署官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
臺灣總督府撫墾署官制

第一條 臺灣總督府撫墾署ハ左ノ事務ヲ掌ル

一 蕃民ノ撫育、授産、取締ニ關スル事項

二 蕃地ノ開墾ニ關スル事項

三 蕃地ノ山林、樟腦製造ニ關スル事項

第二條 各撫墾署ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

主事 十一人 奏任

主事補 百四人 判任

第三條 主事ハ各撫墾署長トナリ知事、廳長ノ指揮監督ヲ承ケ署中一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條 主事補ハ署長ノ指揮ヲ承ケ庶務、技術、通譯ニ從事ス

第五條 撫墾署ノ名稱、位置及管轄區域ハ臺灣總督之ヲ定ム

第六條 知事、廳長ハ臺灣總督ノ認可ヲ經テ須要ノ地ニ撫墾署ノ出張所ヲ置クコトヲ得

行政裁判所處務規程 (明治二十三年八月勅令第百九十二號)

朕行政裁判所處務規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

行政裁判所處務規程

- 第一條 行政訴訟各事件ノ掛評定官ハ行政裁判所長官ノ指定ニ依ル
- 第二條 行政裁判法第八條ニ依リ評定官ヲシテ裁判長タラシムルトキハ同法第七條第二項ノ順序ニ從ヒ之ヲ命スヘキモノトス
- 第三條 裁判長ハ一事件毎ニ審判準備ノ爲メ掛評定官ノ一名若ハ二名ニ專理員ヲ指命スルコトヲ得
- 第四條 裁判長行政裁判法第三十八條第二項ノ場合ニ於テ科罰ヲ言渡シタルトキハ書記ヲシテ訴訟ノ記録ニ之ヲ記入セシム
- 第五條 毎年七月十一日ヨリ九月十日マテノ間ハ行政裁判所ニ於テ緊急ノ事項ト認ムルモノノ外既ニ著手シタル訴訟ヲ中止シ竝ニ新ナル訴訟ニ著手セス
- 第六條 行政裁判所ノ總會議ハ評定官總員三分ノ二以上列席スルニ非サレハ議決ヲ爲スコトヲ得ス
- 第七條 總會議ノ議事ハ長官之ヲ整理ス若シ長官故障アルトキハ評定官中官等最モ高キ者之ヲ代理ス
- 第八條 行政裁判所ハ訴訟ノ呼出狀及其他ノ書類ヲ使丁若ハ郵便ヲ以テ送達シ又ハ通常裁判所ニ囑託シテ送達セシムルコトヲ得
- 第九條 行政裁判所ハ法律命令ノ範圍内ニ於テ其職權ニ屬スル事件ニ付告示ヲ廢スルコトヲ得
- 第十條 行政裁判所長官ハ法律命令ノ範圍内ニ於テ事務取扱ノ順序方法ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

書記ノ職務ニ關スル規程ハ行政裁判所之ヲ定ム

行政裁判所評定官員數並書記ノ員數職務

(明治二十三年六月勅令第百十一號)

朕行政裁判所評定官ノ員數並書記ノ員數及職務ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 行政裁判所評定官ノ定員ハ十一人トス
- 行政裁判所書記ノ定員ハ十五人トス
- 第二條 行政裁判所書記ハ行政裁判法其他法律勅令ニ於テ特定シタル事務ヲ取扱フ
- 第四條 行政裁判所書記ハ行政裁判所長官ノ命令ニ從フ
- 審判ニ關シテハ裁判長ノ命令ニ從フ

警視廳官制 (明治二十六年十月勅令第百五十九號)

朕警視廳官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

警視廳官制

第一條 警視廳ニ左ノ職員ヲ置ク(明治二十九年勅令第百五十一號ヲ以テ全條改正)

警視總監

警視

技師

警察醫長

消防司令長

典獄

警部

警視廳

技手

消防士

警察醫

監獄書記

看守長

消防機關士

第二條 警視總監ハ一人勅任トス

第三條 警視ハ二十七人、警察醫長、消防司令長ハ各一人典獄ハ三人奏任トス（明治三十年勅令
第百九十一號ヲ以テ本條改正）

第四條 警部、警視廳、消防士、警察醫、監獄書記、看守長及消防機關士ハ判任トス

警部、警視廳、消防士、警察醫、監獄書記、看守長及消防機關士ノ定員ハ通シテ四百十四人ト
シ其ノ各官ノ定員ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ警視總監之ヲ定ム（同上）

第五條 技師技手ハ警視廳ノ須要ニ依リ俸給豫算定額内ニ於テ之ヲ置クコトヲ得

第六條 警視總監ハ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ東京府下ノ警察消防及監獄ノ事務ヲ管理ス

第七條 警視總監ハ各省ノ主務ニ關スル警察事務ニ就テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ高等警察專

務ニ就テハ内閣總理大臣及内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ

第八條 警視總監ハ東京府下ノ警察事務ニ付其ノ職權若クハ特別ノ委任ニ依リ管内一般又ハ其ノ
一部ニ關令ヲ發スルコトヲ得

第九條 警視總監ハ其ノ主務ニ就テハ東京府下ノ島司、郡區長及町村長ヲ指揮監督ス（同上）

第十條 警視總監ハ所部ノ官吏ヲ監督シ奏任官ノ進退ハ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行
ス

第十一條 警視總監ハ所部ノ奏任官ノ懲戒ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十二條 警視總監ハ廳中職務ノ細則ヲ設クルコトヲ得

第十三條 警視總監事故アルトキハ第一部長其ノ職務ヲ代理ス

前項ノ場合ニ於テ第一部長事故アルトキハ内務大臣ニ於テ警視廳ノ高等官ノ一人ヲシテ警視總
監ノ職務ヲ代理セシム

第十四條 警視廳ニ總監官房ヲ置ク（明治二十九年勅令第百五十一號ヲ以テ全條改正）

總監官房ニ三課ヲ置キ分掌セシムルコト左ノ如シ

第一課

一 各部署成案ノ審査及規則ニ關スル事項

二 官吏ノ進退及身分ニ關スル事項

三 公文ノ編纂、保存、統計並書籍ノ管守ニ關スル事項

四 文書ノ往復官印及廳印ノ管守ニ關スル事項

五 他課及各部署ノ主務ニ關セサル事項

第二課

- 一 高等警察ニ關スル事項
- 二 外國人ニ關スル事項

第三課

- 一 經費豫算決算及金錢出納ニ關スル事項
- 二 金錢物品出納ノ検査ニ關スル事項
- 三 需用物品ノ調度及地所建物ニ關スル事項
- 四 官沒前保管ノ金錢物品及不用品ニ關スル事項

第十五條 總監官房ニ主事一人巡視二人ヲ置キ警視ヲ以テ之ニ補ス(同上法令ニテ全條改正)

第二課長ハ主事ヲ以テ之ヲ充テ第一課長第三課長ハ巡視ヲシテ之ヲ兼子シメ又ハ警部警視屬ヲ以テ之ニ充ツ

主事ハ警視總監ノ命ヲ承ケ第一課第三課ノ事務ヲ佐クルコトアルヘシ
官房各課員警部警視屬ヲ以テ之ニ充ツ

課長ハ警視總監ノ命ヲ承ケ其ノ課ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス
課員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ課ノ庶務ニ從事ス

巡視ハ警視總監ノ命ヲ承ケ警察事務及消防事務ノ實況ヲ巡閱點檢シ及傳令ノ事ヲ掌ル
第十六條 警視廳ニ左ノ部署ヲ置ク(同上法令ニテ本條改正)

第一部

第二部

第三部
第四部
第十七條 第一部ニ二課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ(同上法令ニテ本條ノ第十八條ナリシヲ第十七條トシ第二部トアリシヲ第一部ニ改ム)

第一課

- 一 犯罪ノ捜査、刑餘人、無賴徒、變死傷者其ノ他公安ニ關スル事項
- 二 失踪者、瘋癲者、不良子弟、棄兒、迷兒及戶口民籍ニ關スル事項
- 三 遺流失物埋藏物等ニ關スル事項

第二課

- 一 警備ニ關スル事項
- 二 警察署警察分署派出所ノ廢置及其ノ職員ノ配置ニ關スル事項
- 三 巡查召募及其ノ教習ニ關スル事項

第十八條 第二部ニ二課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ(同上法令ニテ本條ノ第十七條ナリシヲ第十八條トシ第一部ヲ第二部ニ改ム)

第一課

- 一 營業及風俗警察並銃砲火藥刀劍ニ關スル事項
- 第二課
一 交通警察並田野森林河海堤防取締及水火災豫防等ニ關スル事項

第十九條 (明治二十九年勅令第二百五十一號ヲ以テ刪除)

第二十條 第三部ニ二課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ(同上法令ヲ以テ本條改正)

第一課

一 衛生警察ニ關スル事項

第二課

一 警察監獄ニ關スル醫務及分標等ニ關スル事項

第二十條ノ二 第四部ニ於テハ監獄ニ關スル事務ヲ掌ル(明治三十年六月勅令第九十一號ニテ本條追加)

第二十一條 第一部長第二部長ハ警視第三部長ハ警察醫長第四部長ハ典獄ヲ以テ之ニ補ス(同上法令ニテ本條改正)

部長事故アルトキハ警視總監ニ於テ警視廳官吏ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム

第一部及第二部ノ課長ハ警部又ハ警視廳、課員ハ警部、警視廳ヲ以テ之ニ充ツ

第三部ノ課長ハ警視廳又ハ警察醫課員ハ警視廳、警察醫ヲ以テ之ニ充ツ

第四部員ハ監獄書記看守長ヲ以テ之ニ充テ監獄署員ノ内ヲシテ之ヲ兼テシム

第二十二條 部長ハ警視總監ノ命ヲ承ケ其部ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第一部長ハ警察事務ニ付警察署長以下第四部長ハ監獄事務ニ付監獄署長以下ヲ指揮スルコトヲ得(同上法令ニテ本條改正)

課長ハ上官ノ指揮ヲ受ケ其ノ課務ヲ處理シ課員ハ上官ノ指揮ヲ受ケ其ノ課ノ庶務ニ從事ス

第二十三條 消防署ニ於テハ水火消防ニ關スル事項ヲ掌ル

第二十四條 警視總監ハ東京市内ニ消防分署ヲ配置ス

第二十五條 消防署長ハ消防司令長、署員ハ消防士消防機關士ヲ以テ之ニ充ツ

消防署長事故アルトキハ警視總監ニ於テ警視廳官吏ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム

消防分署長ハ消防士、分署員ハ消防士、消防機關士ヲ以テ之ニ充ツ

第二十六條 消防署長ハ警視總監ノ命ヲ受ケ其ノ署ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス消防分署長ハ上官ノ指揮ヲ受ケ其ノ分署ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

警察署長ハ水火災ニ際シ消防署長出場前ニ於テ消防分署長以下ヲ指揮スルコトヲ得(同上法令ニテ本項追加)

消防士ハ上官ノ指揮ヲ受ケ消防組ヲ指揮監督ス

消防機關士ハ上官ノ指揮ヲ受ケ消防機關ノ運用ヲ掌ル

第二十七條 東京府下ニ三監獄署ヲ置ク在監人分配ハ警視總監之ヲ定ム(同上法令ニテ全條改正)

監獄署ニ分課ヲ設クルコトヲ要スルトキハ警視總監之ヲ定メ内務大臣ニ報告スヘシ

第二十八條 警視總監ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ東京府下ニ監獄支署ヲ置クコトヲ得

第二十九條 監獄署長ハ典獄ヲ以テ之ニ補ス但監獄署長ノ内一人ハ第四部長ヲシテ之ヲ兼テシム

(同上法令ニテ本項改正)

監獄署長事故アルトキハ警視總監ニ於テ警視廳官吏ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム

監獄支署長ハ監獄書記ヲ以テ之ニ充ツ

第三十條 監獄署長ハ警視總監ノ命ヲ受ケ監獄ニ關スル事由ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

監獄支署長ハ上官ノ指揮ヲ受ケ監獄ニ關スル事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

監獄署員監獄支署員ハ監獄書記看守長ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ指揮ヲ承ケ監獄ノ事務ニ從事ス

(同上法令ニテ本項改正)

看守長ハ前項職務ノ外看守ヲ指揮監督ス

第三十一條 東京府下ニ二十三警察署ヲ置ク其管轄區域ハ別表ノ定ムル所ニ依ル
東京府下ニ一水上警察署ヲ置ク

警視總監ハ警察署ノ下ニ便宜分署ヲ置クコトヲ得

第三十二條 警察署長ハ警視又ハ警部警員ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ

警察分署長ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ

必要ノ場合ニ於テハ警部ヲ以テ分署員ニ充ツルコトヲ得

第三十三條 警察署長警察分署長ハ上官ノ指揮ヲ受ケ其ノ署ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

署員ハ上官ノ指揮ヲ受ケ其ノ署ノ事務ニ從事シ巡查ヲ指揮監督ス

第三十四條 警視總監職員ノ外監獄醫ヲ置ク判任官ノ待遇トス

第三十五條 巡查及看守ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

附則

第三十六條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

(別表ハ之ヲ略ス)

◎北海道廳官制

(明治二十四年七月勅令第百一十一號)

朕北海道廳官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道廳官制

第一條 北海道廳ニ左ノ職員ヲ置ク

長官

書記官

(殖民事務長(明治三十年四月勅令第八十八號ニテ本項ヲ削フ))

警部長

財務長

參事官

技師

典獄

警視(同上)

屬

技手

警部

監獄書記

看守長

監獄醫

第二條 長官一人勅任トス

第三條 書記官二人殖民事務長一人警部長一人財務長一人專任參事官二人典獄一人警視一人參任トス(同上法令ニテ本條改正)

第四條 關警部監獄書記看守長監獄醫ハ判任トス區郡書記ヲ通シテ五百九十人ヲ以テ定員トス
(明治二十九年勅令第六十三號ヲ以テ人員改正)

前項各官ノ定員ハ「内務大臣」ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第五條 技師ハ道廳、技手ハ道廳又ハ郡區ノ須要ニ依リ判任官豫算定額内ニ於テ技術官俸給令ニ依リ之ヲ置クコトヲ得(同上)

第六條 長官ハ「内務大臣」ノ指揮監督ニ屬シ各省ノ主務ニ就テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ北海道ノ拓地殖民並部内ノ行政事務ヲ總理ス

第七條 長官ハ屯田兵ノ開墾授産ノ事ヲ監督ス(明治二十八年勅令第九十九號ヲ以テ本條改正)

第八條 長官ハ北海道ノ事務ニ付其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ法律命令ノ範圍内ニ於テ管内一般又ハ其一部ニ廳令ヲ發スルコトヲ得

第九條 (明治二十六年勅令第六十號ヲ以テ本條削除)

第十條 長官ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警護ノ爲メ兵備ヲ要スルトキハ師團長旅團長及「屯田兵司令官」ニ移牒シ出兵ヲ請フコトヲ得

第十一條 長官ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ「内務大臣」ニ具狀シ判任官以下之ヲ專行ス

第十二條 長官ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所部ノ官吏ヲ懲戒ス其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ「内務大臣」ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十三條 (同上)

第十四條 (同上)

第十五條 長官ハ廳中及其所轄官廳ノ處務細則ヲ定ムルコトヲ得

第十六條 北海道廳ニ長官官房ヲ置ク

長官官房ニ書記若干名ヲ置ク屬ヲ以テ之ニ充ツ

第十七條 長官官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 官吏ノ進退身分ニ關スル事項

二 文書ノ往復

三 官印廳印ノ管守

四 記録編輯統計報告ニ關スル事項

五 外國人ニ關スル事項

第十八條 長官事故アルトキハ書記官席次ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス(明治三十年四月勅令第八十八號ニテ本條改正)

前項ノ場合ニ於テ書記官事故アルトキハ拓殖務大臣ニ於テ道廳高等官ノ一人ヲシテ長官ノ職務ヲ代理セシム

長官ハ道廳ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得
第十九條 道廳ノ事務ヲ分掌セシムル爲メ左ノ部所ヲ置ク(同上)

内務部

一 區町村其ノ他公共組合ニ關スル事項

二 學務社寺兵專戶籍及褒賞賑恤ニ關スル事項

三 工商ニ關スル事項

四 水陸運輸ニ關スル事項

- 五 水産及漁獵ニ關スル事項
 - 六 河港堤防道路橋梁排水溝渠ニ關スル事項
 - 七 官衙ノ建築修繕ニ關スル事項
 - 八 他部ノ主管ニ屬セサル事項
- 殖民部
- 一 殖民地ノ選定經畫及交通上ノ調査ニ關スル事項
 - 二 土地收用及土地ノ整理ニ關スル事項
 - 三 土地ノ處分及開墾ニ關スル事項
 - 四 山林ニ關スル事項
 - 五 其ノ他殖民ニ關スル事項
 - 六 農事ニ關スル事項
- 警察部
- 一 高等警察及行政警察ニ關スル事項
 - 二 衛生ニ關スル事項
 - 三 圖書出版及版權ニ關スル事項
- 財務部
- 一 金錢物品ノ管理出納ニ關スル事項
 - 二 豫算決算ニ關スル事項
 - 三 出納官吏ノ身元保證ニ關スル事項

監獄署

- 一 道廳監獄ニ關スル事項
- 第二十條 書記官ハ内務部長殖民事務長ハ殖民部長、警部長ハ警察部長、財務長ハ財務部長、典獄ハ監獄署長トナリ各長官ノ指揮ヲ承ケ部下ノ官吏ヲ監督シ所部ノ事務ヲ掌理ス(同上)
- 内務部長事故アルトキハ長官ニ於テ道廳高等官ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシメ他ノ部長事故アルトキハ道廳官吏ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム
- 第二十一條 參事官ハ長官ノ諮詢ニ應ジ意見ヲ具ヘ及審議立案ヲ掌ル
- 參事官ハ長官ノ命ヲ承ケ内務部及殖民部各部長トナリ又ハ臨時各部長ノ事務ヲ助ケルコトアルヘシ(同上)
- 第二十二條 技師ハ長官又ハ部長ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス
- 第二十三條 各部署中便宜課ヲ設ケ各課ニ課長一人ヲ置キ部署長ノ指揮ヲ承ケ課務ヲ掌理ス
- 課長ハ屬ヲ以テ之ニ充ツ但技師ヲ以テ之ニ充ツルコトアルヘシ
- 第二十四條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
- 第二十五條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス
- 第二十六條 警視及警部ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察事務ヲ分掌シ部下ノ巡查ヲ指揮監督ス
- 第二十七條 監獄書記ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
- 典獄事故アルトキハ主席書記長官ノ命ヲ承ケ其職務ヲ代理ス
- 第二十八條 看守長ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ監獄ノ戒護ヲ掌リ看守ヲ指揮監督ス
- 第二十九條 監獄醫ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ監獄ニ關ル醫務ニ從事ス

第三十條 (明治二十六年勅令第六十號ヲ以テ本條削除)

第三十一條 巡查及看守ニ關スル規定ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十二條 毎郡區若ハ數郡ニ警察署ヲ置ク但函館區ヲ除ク外郡區ヲ合セテ警察署ヲ置クコトヲ得(明治三十年四月勅令第八十八號ニテ本條改正)

地方ノ必要ニ應シ各警察署ノ下ニ警察分署ヲ置キ又郡區ノ區域ニ依ラスノ警察署ヲ置クヲ得警察署長及警察分署長ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ但函館警察署長ハ警視ヲ以テ之ニ充ツ

第三十三條 監獄支署若干ヲ置キ書記ヲ以テ其長ニ充ツ

第三十四條 各郡區職員ヲ置ク左ノ如シ

郡長

區長

郡書記

區書記

技手(同上法令ニテ本項追加)

第三十五條 郡長ハ毎郡若クハ數郡ニ一人區長ハ毎區ニ一人ヲ置ク但函館區長ハ書記官ノ内一人之ヲ兼任ス

第三十六條 郡長區長ハ奏任トス長官ノ指揮監督ヲ受ケ法律命令ヲ部内ニ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理ス

第三十七條 郡區書記ハ列任トス(同上法令ニテ本條改正)
郡區書記及技手ハ郡區長ノ指揮ヲ承ケ書記ハ庶務ニ技手技術ニ從事ス

第三十八條 地方官官制中警察官及郡長書記ニ係ル條項ニシテ本令ニ牴觸セサルモノハ北海道廳警察官及郡區長並郡區書記ニモ之ヲ適用ス

附 則

第三十九條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

北海道廳臨時築港ニ要スル職員ノ件

(明治三十年四月勅令第八十二號)

朕北海道廳臨時築港ニ要スル職員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臨時築港事務ヲ掌理セシムル爲メ北海道廳ニ左ノ職員ヲ置キ内務部ニ屬セシム

技師 專任三人

屬 四人 列任

技手 六人

地方官官制 (明治二十六年十月勅令第六十二號)

朕地方官官制改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地方官官制

第一條 各府縣ニ左ノ職員ヲ置ク

知事

書記官

警部長

收稅長

參事官

技師

典獄

屬

技手

警部

收稅屬

監獄書記

看守長

第二條

第三條

第四條

屬、警部、監獄書記、看守長

收稅屬

屬、警部、監獄書記及看守長

可ヲ經テ知事之ヲ定ム

七千人(明治二十九年勅令第十五號ヲ以テ人員改正)

五千六百五人(明治二十九年勅令第二百七十六號ヲ以テ人員改正)

ノ定員ハ內務大臣之ヲ定メ其各官ノ定員ハ內務大臣ノ認

收稅屬ノ每府縣ノ定員ハ大藏大臣之ヲ定ム

第五條 技師、技手ハ府縣ノ須要ニ依リ俸給豫算定額内ニ於テ之ヲ置クコトヲ得

第六條 知事ハ內務大臣ノ指揮監督ヲ承ク各省ノ主務ニ就テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ法律命

令ヲ執行シ部内ノ行政事務ヲ管理ス

第七條 知事ハ部内ノ行政事務ニ付其ノ職權若クハ特別ノ委任ニ依リ管内一般又ハ其ノ一部ニ府

縣令ヲ發スルコトヲ得

第八條 知事ハ郡長又ハ島司ノ處分若クハ命令ノ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリ

ト認ムルトキハ其處分若クハ命令ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

第九條 知事ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警護ノ爲兵備ヲ要スルトキハ師團長又ハ旅

團長ニ移牒シテ出兵ヲ請フコトヲ得

第十條 知事ハ所部ノ官吏ヲ監督シ奏任官ノ功過ハ內務大臣若クハ主務大臣ニ具狀シ判任官以下

ノ進退ハ之ヲ專行ス

第十一條 知事ハ所部ノ奏任官ノ懲戒ハ內務大臣若クハ主務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行

ス

第十二條 知事ハ廳中處務ノ細則ヲ設ケルコトヲ得

第十三條 知事事故アルトキハ書記官其職務ヲ代理ス

前項ノ場合ニ於テ書記官事故アルトキハ內務大臣ニ於テ府縣高等官ノ一人ヲシテ知事ノ職權ヲ

代理セシム

知事ハ府縣ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第十四條 知事ハ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ郡長又ハ島司ニ委任スルコトヲ得

第十五條 各府縣ニ知事官房ヲ置キ左ノ事務ヲ掌ラシム

一 官吏ノ進退及身分ニ關スル事項

二 文書ノ往復ニ關スル事項

三 官印府縣印ノ管守ニ關スル事項

第十六條 各府縣ニ左ノ部署ヲ置ク

内務部

警察部

收稅部

監獄署

第十七條 内務部ニ四課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ但知事ハ地方事務ノ情況ニ依リ

内務大臣ノ認可ヲ經テ課ヲ増減スルコトヲ得

第一課

一 議員選舉及府縣會、郡會、市町村會其ノ他公共組合會等ノ會議ニ關スル事項

二 府縣稅、備荒儲蓄並郡市町村ノ經濟ニ關スル事項

三 右ノ外他課ノ主務ニ屬セサル事項

第二課

一 土木ニ關スル事項

二 官有地及土地收用ニ關スル事項

第三課

一 學務、農工商務、兵事、社寺及戶口民籍ニ關スル事項

二 東京府ニ於テハ右ノ外衛生ニ關スル事項

第四課

一 府縣費ノ會計ニ關スル事項

二 府縣稅及備荒儲蓄ノ收支出納ニ關スル事項

第十八條 警察部ニ於テハ高等警察、行政警察及衛生ノ事務ヲ掌ル

第十九條 收稅部ニ於テハ國稅ノ賦課、徵收並間接國稅犯則者處分及徵稅費ニ關スル事務ヲ掌ル

第二十條 監獄署ニ於テハ監獄ニ關スル事務ヲ掌ル

第二十一條 書記官ハ内務部長、警部長ハ警察部長、收稅部長ハ收稅部長、典獄ハ監獄署長トナ

リ知事ノ命ヲ承ケ部下ノ官吏ヲ監督シ所部ノ事務ヲ掌理ス

第二十二條 内務部長事故アルトキハ知事ニ於テ府縣高等官ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシメ

警察部長、收稅部長又ハ監獄署長事故アルトキハ知事ニ於テ府縣官吏ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ

代理セシム

第二十三條 參事官ハ知事ノ命ヲ承ケ審査立案ヲ掌ル

參事官ハ知事ノ命ヲ承ケ内務部ノ課長トナリ又ハ臨時部課ノ事務ヲ助クルコトアルヘシ

第二十四條 警察部、收稅部及監獄署ニ分課ヲ設クルコトヲ要スルトキハ知事之ヲ定メ主務大臣

ニ報告スヘシ

第二十五條 内務部各課長ハ屬ヲ以テ之ニ充ツ但技師又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

課長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其課務ヲ處理ス

第二十六條 屬ハ内務部各課及知事官房ニ分屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十七條 警部ハ警察部又ハ警察署若クハ警察分署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ヲ分掌シ部下ノ巡查ヲ指揮監督ス

第二十八條 收税屬ハ收税部又ハ收税署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十九條 監獄書記ハ監獄署又ハ監獄支署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三十條 看守長ハ監獄署又ハ監獄支署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ監獄ノ戒護ヲ掌リ看守ヲ指揮監督ス

第三十一條 各都市ニ警察署ヲ置ク但地方ノ必要ニ應ジ都市ノ區域ニ依ラスシテ警察署ヲ置クコトヲ得此ノ場合ニ於テハ内務大臣其ノ管轄區域ヲ定ム(明治二十九年勅令第二百四十九號ヲ以テ本條改正)

知事ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ警察署ノ下ニ警察分署ヲ置クコトヲ得

第三十二條 警察署長及警察分署長ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ

警察署長及警察分署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ署主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第三十三條 巡查及看守ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十四條 府縣内須要ノ地ニ收税署ヲ配達ス其ノ配置及管轄區域ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 收税署長ハ收税屬ヲ以テ之ニ充ツ

收税署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ署主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第三十六條 知事ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ須要ノ地ニ監獄支署ヲ置クコトヲ得

監獄支署長ハ監獄書記ヲ以テ之ニ充ツ

監獄支署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ署主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第三十七條 府縣職員ノ外監獄醫ヲ置ク判任官ノ待遇トス特ニ警察醫ヲ置クトキ亦同シ(同上)

第三十八條 東京府ノ警察及監獄ニ關スル事項ハ警視廳官制ニ依ル

第三十九條 郡職員ヲ置クコト左ノ如シ

郡長

郡書記

第四十條 明治十一年第十七號布告郡區町村編制法第五條ニ依リ數郡ニ郡長一人ヲ置キタル地方ニ於テ之ヲ廢止スルコトヲ要スルトキ及同條ニ依リ新ニ數郡ニ郡長一人ヲ置クコトヲ要スルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

郡制ヲ施行シタル地方ニ於テハ每郡ニ郡長一人ヲ置ク

第四十一條 郡長ハ委任トス知事ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ部内ニ執行シ郡内ノ行政事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第四十二條 郡長ハ行政事務ニ就テ其ノ部内ノ町村長ヲ指揮監督ス

第四十三條 郡長ハ郡書記ノ任免ヲ知事ニ具申スルコトヲ得

第四十四條 郡長ハ法律命令ニ依リ若クハ知事ヨリ委任セラレタル事件ニ付郡令ヲ發スルコトヲ得

第四十五條 郡長事故アルトキハ上席郡書記其ノ職務ヲ代理ス

第四十六條 郡長ハ郡ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第四十七條 郡書記ハ判任トス其ノ定員ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ知事之ヲ定ム
第四十八條 郡書記ハ郡長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス
第四十九條 勅令ヲ以テ指定スル所ノ島地ニ特ニ島廳ヲ置ク
第五十條 各島廳ニ左ノ職員ヲ置ク

島司

島廳書記

第五十一條 島司ハ一人奏任トス知事ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ部内ニ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第五十二條 島司ハ法律命令ニ依リ若クハ知事ヨリ委任セラレタル事件ニ付島廳令ヲ發ルコトヲ得

第五十三條 島司ハ島廳書記ノ任免ヲ知事ニ具申スルコトヲ得

第五十四條 島司ハ行政事務ニ就テ其ノ部内町村ノ吏員ヲ指揮監督ス

第五十五條 島司專故アルトキハ上席島廳書記其ノ職務ヲ代理ス

第五十六條 島司ハ島廳ノ官吏ヲシテ事務ノ一部ヲ臨時ニ代理セシムルコトヲ得

第五十七條 島廳書記ハ判任トス其ノ定員ハ北縣判任官ノ定員内ニ於テ知事之ヲ定ム

第五十八條 島廳書記ハ島司ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附則

第五十九條 本令ハ明治二十六年十二月一日ヨリ施行ス

府縣參事會ノ職務

(明治二十四年九月勅令第百九十六號)

朕府縣參事會ノ職務ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 土地收用法第二十九條土地收用審査委員ノ事務ハ府縣制ヲ施行シタル府縣ニ於テハ府縣參事會之ヲ行フヘシ

參事會之ヲ行フヘシ

第二條 所得税法第二十條及第二十一條府縣常置委員會ノ事務ハ府縣制ヲ施行シタル府縣ニ於テハ參事會之ヲ行フヘシ

間稅官署ノ事務及其署長ノ職務取扱方

(明治二十六年十月勅令第百六十三號)

朕間稅官署ノ事務及其ノ署長ノ職務取扱ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

間稅署ノ事務ハ自今收稅部ニ於テ間稅官署及間稅分署ノ職務ハ自今收稅署ニ於テ之ヲ取扱ヒ間稅署長及間稅分署長ノ職務ハ自今收稅部長及收稅署長之ヲ行フヘシ

附則

本令ハ明治二十六年十一月一日ヨリ施行ス

府縣收稅署ノ位置及管轄區域表

(明治二十六年十月勅令第百六十四號)

朕府縣收稅署ノ位置及管轄區域ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

府縣收稅署ノ位置及管轄區域別表ノ通定ム

附則

本令ハ明治二十六年十二月一日ヨリ施行ス

(別表ハ之ヲ略ス)

郡市ノ區域ニ依ラサル警察署管轄區域表

(明治二十六年十一月勅令第二百十四號)

朕郡市ノ區域ニ依ラサル警察署管轄區域ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

郡市ノ區域ニ依ラサル警察署管轄區域別表ノ通之ヲ定ム

附則

本令ハ明治二十六年十二月一日ヨリ施行ス

(別表ハ之ヲ略ス)

監獄支署ニ看守部長ヲ置ク

(明治二十五年三月内務省訓令第二號)

監獄支署ニ於テハ戒護上ノ監督ヲ補助セシムル爲ニ看守部長ノ職ヲ置キ月俸十圓以上ノ看守ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

看守部長ハ看守ノ上座トシ看守長ニ亞クノ待遇ヲ受クヘキモノトス

看守部長ハ上衣並外套ノ左腕ニ緋絨(長曲尺一寸五分幅同一寸)ノ徽章ヲ付スヘシ

廳府縣巡查定員 (明治二十九年四月勅令第四百四十八號)

朕廳府縣巡查定員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 廳府縣巡查ノ定員ハ左ノ定限内ニ於テ土地ノ狀況ヲ斟酌シ内務大臣之ヲ定ム

一 市ニ於テハ人口三百乃至八百ニ付 一人

二 郡ニ於テハ人口千乃至二千ニ付 一人

第二條 教習中ノ巡查及請願ニ依リ配置スル巡查ハ定員以外トス

第三條 本令ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

第四條 第一條ニ依リ巡查ノ増員ヲ要スル廳府縣ニ於テ一時ニ増加シ難キ事情アルトキハ内務大臣ハ本令施行ノ日ヨリ五箇年内ニ漸次増加シテ定員ヲ充タスコトヲ得

第五條 本令ハ北海道廳及沖繩縣ニ適用セス

廳府縣看守定員 (明治二十七年一月勅令第四號)

朕廳府縣看守ノ定員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 廳府縣看守ノ定員ハ拘禁男子五百人ニ付七十五人トシ拘禁男子五百人以上ハ百人ヲ増ス

毎ニ看守十人ヲ加ヘ五百人以下ハ百人ヲ減スル毎ニ看守十人ヲ減ス

第二條 監獄支署アル地方ニ在テハ前條ノ定員ノ外各支署ニ三人以下ノ看守ヲ増置スルコトヲ得

第三條 看守定員ノ増減ハ拘禁男子二百人ノ差ヲ生シタルトキニ於テ之ヲ行フ

第四條 監獄ノ構造ニ依リ本令ノ定員ニ依リ難キトキハ内務大臣ハ勅裁ヲ經テ之ヲ増減スルコト

ヲ得

附則

第五條 本令ハ明治二十八年四月一日ヨリ施行ス

地方官御料地ヲ管理ス (明治二十三年六月勅令第八十八號)

朕地方官ナシテ御料地ヲ管理セシムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
地方長官ハ宮内大臣ノ委託ニ由リ御料地ヲ管理スヘシ其管理ニ依ル費用ハ皇室ノ支辨トス

貴族院事務局官制 (明治二十三年七月勅令第二百一號)

朕貴族院事務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

貴族院事務局官制

第一條 貴族院事務局ノ職員ハ左ノ如シ(明治二十四年勅令第九十九號ヲ以テ全條改正)

書記官長

一人

書記官

專任六人(明治二十六年十月勅令第六十五號ヲ以テ八人トアリシ
ヲ專任六人ト改ム)

屬

十五人

速記技手

二十五人(明治三十年十月勅令第三百四十九號ニテ本項改ム)

守衛長

一人(明治二十四年勅令第二百六號ヲ以テ本項追加)

守衛番長

三人(同上)

官

第二條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ局中一切ノ事務ヲ監督ス

局中ノ分課及職員配置ハ書記官長之ヲ定ム

第三條 書記官ハ書記官長ノ指揮監督ヲ承ケ議事記録筆記印刷庶務會計等ニ關スル事務ヲ分掌ス

第四條 書記官長故障アルトキハ上席書記官其ノ職務ヲ代理ス

第五條 屬及速記技手ハ判任トス書記官長ノ定ムル所ニ依リ各其ノ事務ニ從フ(明治三十年十月

勅令第三百四十九號ニテ本條改正)

第六條 守衛長ハ判任トス守衛番長以下ヲ部署シ院中ノ取締ニ任ス(明治二十四年勅令第二百六

號ヲ以テ本條追加)

第七條 守衛番長ハ判任トス守衛長ヲ助ケ守衛ヲ指揮シ守衛長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

(同上)

衆議院事務局官制 (明治二十三年七月勅令第二百二十二號)

朕衆議院事務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

衆議院事務局官制

第一條 衆議院事務局ノ職員ハ左ノ如シ(明治二十四年勅令第百號ヲ以テ全條改正)

書記官長

一人

書記官

專任六人(明治二十六年勅令第六十六號ヲ以テ八人トアリシヲ
專任六人ト改ム)

屬

十五人

新撰帝國法典終

- 速記技手 二十五人(明治三十年十月勅令第三百五十號ニテ本項追加)
- 守衛長 一人(明治二十四年勅令第二百七號ヲ以テ本項追加)
- 守衛番長 三人(同上)
- 第二條 書記長官ハ議長ノ指揮ニ依リ局中一切ノ事務ヲ監督ス
局中ノ分課及職員ノ配置ハ書記官長之ヲ定ム
- 第三條 書記官ハ書記官長ノ指揮監督ヲ承ケ議事記録筆記印刷庶務會計等ニ關スル事務ヲ分掌ス
- 第四條 書記官長故障アルトキハ上席書記官長ノ職務ヲ代理ス
- 第五條 屬及速記技手ハ判任トス書記官長ノ定ムル所ニ依リ各其事務ニ從フ(明治三十年十月勅令第三百五十五號ニテ本條改正)
- 第六條 守衛長ハ判任トス守衛番長以下ヲ指揮シ院中ノ取締ニ任ス(明治二十四年勅令第二百七號ヲ以テ本條追加)
- 第七條 守衛番長ハ判任トス守衛長ヲ助ケ守衛ヲ指揮シ守衛長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス(同上)

明治三十一年二月七日印刷
明治三十一年二月十日發行

定價金 壹圓

編纂者 博文館編輯局

發行者 大橋新太郎

東京日本橋區本町三丁目八番地

印刷者 多田三彌

東京麴町區内幸町一丁目五番地

印刷所 惠愛堂

東京麴町區内幸町一丁目五番地



發兌元

東京日本橋區
本町三丁目

博文館

博文館編輯局編纂

帝國六法全書

全壹冊

總グロース
金文字入洋裝

紙數八百廿頁正價六拾五錢

郵稅
八錢

本書載する所のものは、**憲法、法例、裁判所構成法、刑法、刑事訴訟法、民法、商法、民事訴訟法**の八大法律を以てし、且此れに附屬の要則は、細大掲げて洩らすことなし、其内容の豊富なる知るべきなり。而かも全文皆な六號活字を用ゐたれば、巻帙は浩濶ならずして、携帶に最も便なり。加ふるに文字鮮明にして紙質は最も良好、校正は嚴正にして、從來流布の同書の比にあらざるなり。

◎修正

刑法、民法、

法例、商法、

四大法典草案

正價金四拾錢
郵稅六錢

法學博士

梅

謙次郎君序文

宮川大壽君著

法學士

朝倉外茂鐵君校閱

日本新民法正解

全壹冊

洋裝
美本

紙數八百頁正價金四拾錢

郵稅
拾錢

上は高樓の紳士より、下は裏店住居の車夫に至る迄、最も廣く適用せられて而して吾人の權利に最も直接の關係を存するものは夫れ民法か、然れども、民法也者、文簡にして理密、條項多くして難句また少なからず、是普通の者の爲めに、俗解の需用の必要なる所以なり、此書は、各章各節の初に於て、章、節含む所の條理の要を摘み、項を掲げて最も通俗に説明し、難解の辭句は龍頭に於て註釋を下し、且書中各所に挿むに、第九議會に於ける修正特別委員會の速記録をさへ以てしたれば、法の理義に通ずるの傍、立法の精神を探ぐるの便あるなり。

法學博士 穂積陳重君序文
獨逸法學博士 本多康直君序文

鹿野直司君著

四

日本新民法圖解

全壹冊 洋裝大判美本 正價金參拾錢 郵稅 六錢

法に形體あり理義あり而して其理義を知らんと欲する者先づ其形體を知るを要す然るに民法は私權の基礎法にして其の條章浩澁其の理義深密其の形體甚複雜斯道に遊ぶの士も尙ほ之に通ずるに艱む著者茲に見るあり經營慘憺民法の條規を解剖して其皮膚骨肉神經脈絡を圖解し其形體を示すの詳なる覽る者をして又光線を藉りて人體を透視するの想あらしむ。

前警保局長 小野田元熙君序文

宮川大壽君編纂

警察法規大全

全壹冊 洋裝美本
袖珍 洋裝
正價 廿五
郵稅 六錢

強制以て社會の秩序を紊れざるに維持し、公力以て國家の安寧を壞れざるに保繋する者、警察を措いて其れいづくにか有る、而も警察や、法規の外に運動すること能はず、人民は又不法なる強制に屈從するの責なしとせば、警察法規豈知らずして可ならんや。此書や、警察に關係ある規則は、法律と勅令を問はず、又訓示指令に論なく、分類彙輯、以て搜索せんとするもの、便に供せる輕便有益の袖珍書たり。職に警察に在る者は固より、其下に立つ者も、不法の強制に屈せざらんとするの士は、購ふて一本を座右に供せよ。

五

博文館法律書類

編著譯者	坪谷四善郎	江學士 木 衷	坪谷善四郎	金子源治	江學士 木 衷	宮川大壽	和田維四郎	坪谷善四郎	萩野由之	小中村義象	淺野多作	加藤治之丞
●市制町村制註釋	●法律解釋學	●府縣制郡制註釋	●疑義說明 刑法實用大全	●世民法汎論	●現行民事訴訟手續	●帝國鑛山法	●日本民法註釋	●日本古代法典	●日本行政法釋義			
冊數	一	一	一	一	一	一	五	一	一			
洋裝	全	全	全	並洋裝	並洋裝	上洋裝	並洋裝	上洋裝	並洋裝			
定價	二五	三〇	三〇	三〇	四〇	二〇	一冊三〇	七〇	三〇			
送料	八〇	八〇	八〇	八〇	一〇〇	六〇	八〇	一六〇	六〇			

博文館法律書類

博文館編輯局	宮川大壽	宮川大壽	古川浩彌	安藤三喜之助	宮川大壽	多田房之輔	板東隆藏	門脇重雄	鹿野直司	宮川大壽	柳田津之雄
●現行日本法令大全	●警察法規大全	●日本會計法規大全	●戶籍法規大全	●現行願屆書式大全	●現行契證書大金	●日本勸業銀行法 正解	●日本新民法圖解	●日本新民法正解	●恩給扶助法大全		
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一		
上洋裝	全	上洋裝	並洋裝	全	全	全	全	全	全		
二〇〇	二五	一三〇	八	二五	二〇	三〇	三〇	四〇	二〇		
六百目	四〇	六百目	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	一〇〇	四〇		

法學士 城 數馬君校閱 宮川大壽君著

日本民事訴訟法註釋

全壹冊 洋拾錢
正五冊 洋拾錢
郵稅八

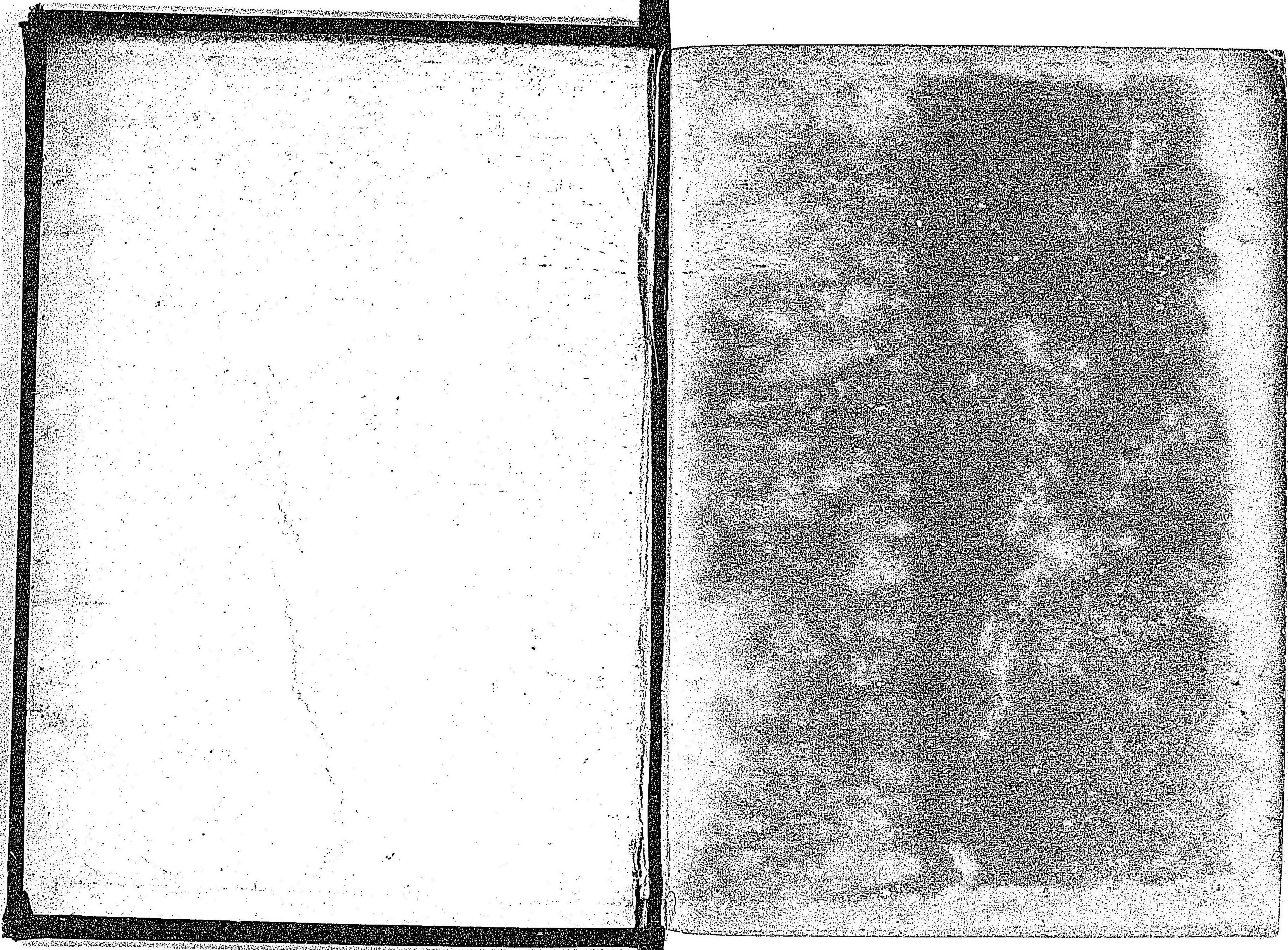
訴訟法は權利争闘の條規を定むる者なりとの古碩學の格言は、實に能く訴訟の性質を顯示せるためと謂ふ可し、蓋し權利の争闘は原被告何れにても擯に行動するを許さず、進退必ず訴訟法の規定に従はしめ、動止亦其指示する所に依らしむ。而して法規の外に逸せるの行爲は、法律上其存在を認めざるが故に、主張に理あるも敗訴の言渡を受けざるべからず。訴訟法規の講究に於ては、主げんや。本書は、其條規の説明を爲す極めて丁寧、文章の平易にして難解の義理も、一讀の下直ちに之に通ずるを得せしむ。權利の争闘に勝つたらんとするの士は、一本を得て之を座右に備へよ。

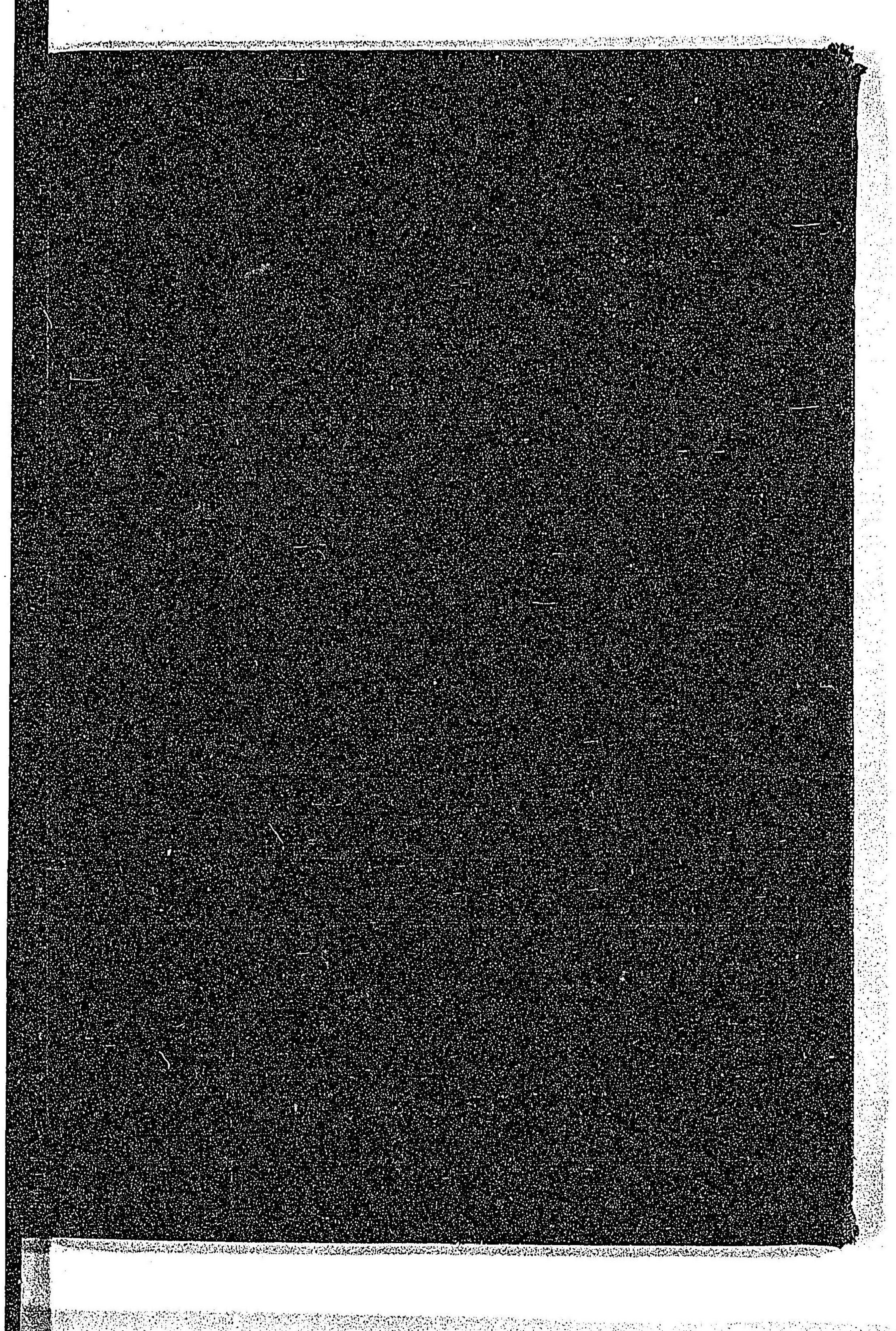
法學士 朝倉外茂鐵君校閱 宮川大壽君著

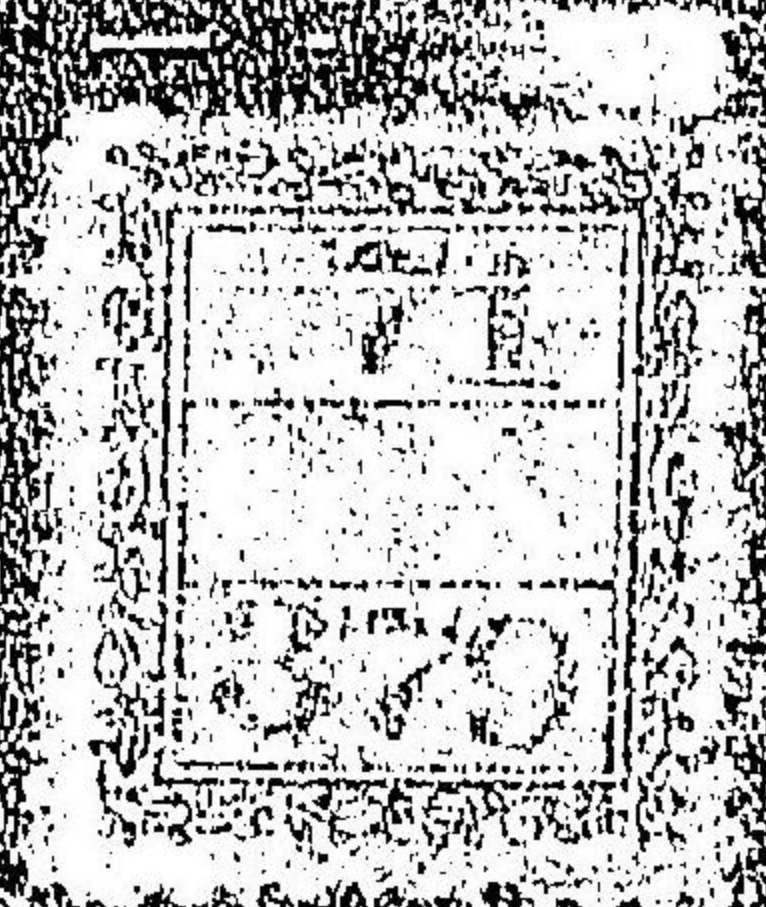
現行 訴訟手續

民事 刑事

全壹冊 洋拾錢
正六冊 洋拾錢
郵稅六







031011-000-2

CZ-5-035

新撰帝国法典

博文館

M31

BBC-0478



71
379